

「愛の血液助け合い運動」月間 (平成19年7/1~7/31)に因んで

沖縄県赤十字血液センター 所長 屋良 勲



「愛の血液助け合い運動」月間の趣意

沖縄県赤十字血液センターの血液事業につきましては、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。血液事業は、国・県・地方団体が一体となって、献血思想の普及・推進、献血者の確保、組織化について行い、日本赤十字社が献血の受け入れから検査、製剤、供給を分担することになっています。WHOは1975年に「医療に使う血液はすべて献血によるべきである」、「自国で必要とする血液は、その国で自給自足とするべきである」と決議しています。

献血者の確保については、血液法第11条(献血受入計画)に基づき、採血業者としての日本赤十字社が国の定めた基本方針及び献血推進計画に則した献血受入計画を策定しています。

目標量としては、必要とする血液製剤を過不足なく安定的に供給するために、全血液量で約130万L、血小板成分献血で約30万L、血漿成分献血で約32万Lの合計約193万Lを確保するとしています。平成19年度の沖縄県の献血目標人数は、全血で約3.8万人、血小板成分で約6.1千人、血漿成分で約9.1千人、合計5.3万人です。手術を含む緊急に血液を必要とする患者さんのため、また大きな災害時に大量の血液を必要とすることを想定して、3日分の血液の備蓄を義務づけられています。需給調整とって足りないときは全国から受け入れます。

平成18年度は献血者の人数が500万人を割りました。少子高齢化の影響と、若年層の献血者の減少が大きな原因と考えられます。目標量を確保するために、国・県・地方公共団体との連

携を密にして献血者の確保に努めることにしています。具体的には、献血協力団体やボランティアの理解と協力、各年齢層を通してより多くの国民からの献血、血液事業に対する知識の普及、年間を通した各種のキャンペーンを実施しています。



7月の「愛の血液助け合い運動」は上記の趣意の基に沖縄県と日本赤十字社沖縄県支部・血液センターを中心に各関係団体の協力を得て行われる催しであります。「献血運動を国民運動に」が認識、周知されることを切に願っています。

キャンペーン期間中の活動内容(表1参照)

平成19年度の運動期間中には表1に示すように、各種のイベントがあります。7月1日(日)には月間行事も合わせて地元2紙に県知事メッセージが掲載されます。その他街頭でのキャンペーン、パネル展示会、街頭献血、県庁職員による献血、マスメディアを通じての広報等献血が県民の尊い命を救っていることを身近に感じて頂きたいと思えます。

表1. 「愛の献血助け合い運動」主なるイベントと街頭献血

イベント	実施月日	実施場所	備考
県知事メッセージ	7月1日(日)		月間行事も合わせて地元2紙に掲載 琉球新報、沖縄タイムス
街頭でのキャンペーン およびビラ配布	調整中	バレット久茂地イベント広場	ミス沖縄、県及び市職員、各種ボラン ティア団体
市町村献血キャラバン	調整中	北部福祉保健所管 内の市町村(役場)	市町村を巡回し知事メッセージを伝達 する。
献血教室	調整中	調整中	血液の不思議、献血した血液のつか われ方など
献血関係のパネル展示会	7月24日(月)～ 27日(金)	県庁1階県民ホール	
街頭献血	7月1日、8日、15日	琉球ジャスコ北谷店	毎週日曜日
	22日、29日	イオン具志川 ショッピングセンター	
県庁職員による献血	7月24日(月)～ 27日(金)	県庁1階県民ホール	パネル展示と同時に実施
マスメディアを通じての広報	7月1日～7月31日	県民サロン、ラジオ県 民室、ちゅらしま沖縄等	新聞・ラジオ・テレビによる広報

献血推進を県民運動に

沖縄県の平成19年度赤血球製剤の適正在庫数(3日分)は、A型260本、O型230本、B型140本、AB型70本、合計700本です。緊急時を含む輸血、災害時の緊急輸血の目的で、日々の適正在庫を維持するため献血者に呼びかけています。血液センターでは採血、製剤化、厳重な品質管理そして各医療機関に迅速に供給しています。この目標を達成するためには、多くの献血者の理解と善意が欠かせません。

血液事業を支えているのは、沖縄県をはじめ、一般献血者、奉仕団体、各企業、赤十字奉仕団、各保健所管轄区域で任命されている献血推進委員等、多くの方々であります。中でも印象に残る献血活動を行っている団体をあげますと、一貫して献血の普及啓蒙活動を行っているライオンズクラブや社長自ら関連企業に呼びかけて年2回の献血日を設定して献血を実施している大興建設(嘉手納町)があります。社員の名刺には「献血は誰にもできる人助け」と刷り込まれています。献血して頂けるだけでも有り難いのに、終了後は採血車の職員をねぎらって

パーティを準備してくれます。他にも生コンクリート業界は、全島の同業者に呼びかけて献血を行っています。また、地域の献血推進協議会や赤十字奉仕団の献血推進活動も活発で、献血時の呼びかけ、献血者へのお世話など、積極的に活躍しています。特に宮古島市や石垣市での献血は、献血車を船で運んで各2週間ずつ行われますが、市長自ら献血推進協議会の会長となって、全島をあげてあらゆる業種の方が献血に協力しています。実に有り難いことで、日常業務の一環として心安く献血活動を進めていることに頭の下がる思いです。緊急に大量の血液が使用され、ある型の血液が適正在庫の危険域にある時には、登録者に電話連絡して久茂地の献血ルームにきてもらうこともあり、自衛隊に緊急献血を依頼することもあります。感謝の毎日であります。

最後に、年間を通して各種の献血推進のキャンペーンをさせてもらっていますが、尊い命を救う血液の必要性、そしてそのための献血の重要性を多くの県民が認識し、献血運動に参加されることを願ってやみません。